

常盤塾議事録

日時：2017年7月8日（土）10：00～13：00

場所：新国際ビル MBFハウス

文責：常盤塾ライター 鈴木雅也、秋元裕太

メンバー：常盤先生、片平先生、出井さん、松永さん、古城さん、大下さん、丸山さん、松山さん、白井さん、古川さん、安梅さん、松崎さん

アジェンダ

1. 一分間スピーチ
2. 常盤先生のお話し
3. 大下さんの発表 『サピエンス全史 第2部』

(1) 一分間スピーチ

・白井さん

「食」と「農」を通じたまちづくり。ポートランド。ローカルファースト。多様性（マネー一辺倒ではなく）

・松山さん

サピエンスとチンパンジーの違い。30億の塩基の文字の中で、違いは1.23%しかない。少ないかどうか。

・松永さん

仕掛け学の講演。AIの研究者が「データじゃない」とやめて行く。99%はデータでない。データのない世界の方が圧倒的に多い。関係性の構造が後ろにある。データから離れると、マクロミクロの入れ子に気づく。

・松崎さん

「伝わる」と「伝える」。伏見の酒屋。一覧で試飲ができる酒屋。企業との

間にあるキュレーターの役割が重要。水や磨きなどで全然味が違う。斎藤酒造。

・大下さん

アメリカのインディーレースで佐藤琢磨が優勝。アメリカのチームに属している。日本では騒がれなさすぎる。グリコが協賛。もっと宣伝しても良いのでは。またホンダも関わっているが、日本人スタッフはほぼ関わっていない。

・片平先生

鳥取へ。前田章宏さん（白磁）今右衛門さん（有田焼）どう見られているか不安という作品しか良くない。34歳の時の作品、雪の模様を点々とさせた。東京の大雪を見て頭に残っていた気持ちがどこかで作品になった。「記憶の貯金」

・丸山さん

ノーベル賞、自然の女神のベールを科学の女神が外すデザイン。ベールをめくるようなことではなく、外から見ることも大事。西洋では、「宇宙＝秩序・統一」東洋では、「時間」など。考え方も違う。

・安梅さん

意思決定資本。飛島村に27年間調査。「社会関係資本」「人的資本」「意思決定資本」（皆で良いものにして行く風土）「きらり」という言葉に子供からお年寄りまで良い印象として反応する。

・古川さん

量子コンピューターのプロトタイプが出た。1億倍くらい速くなるかも。暗号（シーザーなど）シーザー暗号は1000年くらい解けなかったが、色々な暗号がバレてしまう可能性も。大変なこと。

・古城さん

AIスピーカー。アマゾンの『エコー』が大ヒット。フォードが車の中に組み込んだ。これに自動運転が加わればすごい。日本語は同音異義語がたくさん

あるので難しい。

(2) 常盤先生のお話し

今はAIが盛ん。しかしマスコミ的に面白いが、本質的にはどうということもない。人間は賢い。色々なことを合わせながら生きている。人工知能はどんどん変わるが、人間も合わせて変わるので心配はない。それより生き方や価値観に頭を使うべき。人工知能の話はそんなにすべきではないのでは。

「相対化」について。生き方にとって「相対」が重要。日本語しか使っていないと、日本語がどういう仕組み・論理でできているかはわからない。異国の言葉と接することで、客観的に見ることで、分かるようになる。外国語の学習は、単に話せるとかを超えて自国の無意識の論理を意識することにつながる。

「無意識」とは、建物で言えば地下室。外から見ても、また自分では認識できない。本質的に言葉を使う限り、その言葉の影響を受け、発想も違ってくる。言葉の考え方を踏まえると、理解度が上がる。

木を見る西洋人、森を見る東洋人。「水槽に魚がいる」東洋人は全体のイメージを話す。動かないけど背景にあるものに関心がある。逆に西洋人は、中にある魚の模様とか大きなもの、目立つものに注目する。ズームイン（東洋人）とズームアウト（西洋人）の思考の違い。アメリカの学生の履歴書は、履歴が「今」から始まる。

自分とは違う相手を知ることが大事。例えば和食の文化遺産の例。洋食を食べてなければわからなかった。常に、対極に他者の思考・文化を置き、自分の持つ無意識の論理や価値観を知ること（＝相対化）

「楕円思考」＝物事を相対化する発想。物事には必ず対極があるということ意識すること。人間とは何かという話。一人では人ではない。他があって初めて人間。存在の本質は人間（じんかん）にあり。常にその関係は変化して行く。楕円の中心からの差は変化するが、距離の和は同じ。

(以上前回の復習)

相対 ⇔ 絶対

絶対とは、他との対立・比較を超えること。「絶対」は人間の生活の中には存在しない（形而下では）。

NHKで宮本亜門さんがゲストの番組。ジャンルを超えた、自分なりのジャンルを創造して国内外で活躍し、演劇の新しい可能性を探る意欲的な人。「日常生活、仕事で大事にしていることは何か？」に対し、フリップに書いた答え。『離見の見』

片平先生「世阿弥に学ぶ100年ブランドの本質」

物数＝上手な人が色々なものを取り入れる。「離見の見」は相対化。演者が身体を離れ、客観的に観客の目を持って自分の姿を見ろということ。

「見所同見」「見所の見」＝お客さんの目で見ろという言葉。

自分のことにコメント（批判）してくれる人を持つことが大事。音楽が素晴らしいのは、良い音楽家がいるからではなく、それを評価する人々がいるから。他者との関係には動きがあるということを念頭に置き、芸の道を極めよ。

「演繹的」「帰納的」2つの考え方がある。

演繹的な考えで見えていくと、集約されたところに芸の道が生まれる。一度極めれば、他の自分の行いもまたよく見えるようになる。「初心忘るべからず」＝初心は一生ある、という意味。歳をとっても初めて経験できることがあるということ（初心の連続）『華』＝美しさ、魅力、面白さ、驚きなどを含めたもの（全てポジティブ）華と初心はキーワード。能には華がなければいけない。華も時々で変わる。しかし華の種をたくさん持っておいて、場面場面によって使い分けて行くことが大事（＝物数）。

-安梅さん

日本と欧米の子育て。日本では「私と私たち」という感覚。欧米は「私とあなた」という感覚。親が子供に近づくと不快な顔をするのが正しい（他者）日本は違う（私たちとしての親）。二分法はいけない。例えば、「お父さんとお母さんとどっちが好き？」という問い。

相対化するということは、比較ではない。”相手の存在を認めながら自分を評価してもらうorする”という見方。

-松永さん

バレーボールのゾーン。自分の打つ姿が空から見える。禅の世界はそれに近いのでは。観客の視点が環境と一緒に変わったような視点。

幽玄の世界感。狛犬、火と水 二極を持つ。ぼんやりとした姿を感じ取る。

見る人のレベルが高ければ、幽玄の世界を感じ取れる。それはテレビの顧客とは違う。普通のホールの演者と観客とは違う。能は絶滅寸前。ブランドもそうだが、なぜ感性はあるのに世界に通じるものにならないのか。量子論も能的な側面がある。

ラフレーさん (P&G) 花王で活躍。花王で学んだことを全世界でやっている。

インドで髭剃りとか。「一緒に暮らす」というような発想のブランドが日本からじわじわ出てくるのでは。ソフトとハードを一体にすることをしないと世界では通用しない。「何が欠けているのか」を一度探らないといけない。相対の「相」という字は、「相手とともにいる」「相互に関係する」という意味。「対(つい)」の発想は、一人ではできない。ソフトとハードの関係もそう。

中国や西洋は、請求書を発行するのがうまい。日本人はそういう発想がない。

だからビジネスで押されて負けてしまうのでは。特許関係もそう。目に見えないものをどうするか。「研究者は人工知能の研究をしている」というような言い方。そもそも人工知能という定義が曖昧。人工知能と言っても、「家電で使われるもの」「コンピューターが目と耳を持つタイプ」の2つがある。常盤先生がおっしゃるのは前者。その2つをしっかりと分けて考えないといけない。そういうのに気づくのはジョブズとか日本の好きな外国人では。

(3) 大下さんの発表

(『サピエンス全史 第2部』)

～ディスカッション

『ホモデウス』（人間が神になる）という本。昔は飢え、戦争で死ぬのが多いが、現在は肥満で死ぬのが多い。一世紀しか持たない記憶。インターネット

のイメージ。同じものでも印象が違う。若い人は、PCの存在を疑問視するくらい。そんな早い変化の中に、AIというものが入ってくることの恐ろしさ。

ビッグデータ＝書き換えるまで変わらないデータしか扱わない。マーケティングをしている人たち（セールスフォース）＝AIの最先端。CRMのデジタルを握っていたから急成長した。そこにはIBMは入れない。BtoBまで。しかも自然言語解析に力を入れている。

イスラムの法典を解析する人によって統計学が発達した。安田登さんは、シュメール語に詳しい。心という概念を生んだ。

「言葉は神との関係」（白川静）

『解体新書』は、精神と活動と知覚の活動を「神」と呼んだ。神とは世界観、西洋に対抗する世界観を作るべき。日本の神には経典がなく、書けない。自然を感じ取らないといけないから。山伏の修行はその自然を感じ取るのが目的。「心で伝えていく」というやり方。前田さんという方。裏山を毎日散歩し、3日経てばその変化に気づく。七十二候。それを形にする技を持っている。そういう気候を感じ取り暦を作る人＝『陰陽師』

天気というのは重要。これだけ天気予報の精度が上がっても、災害が起これば仕方がない。船もそう。避けて行くだけ。林業の衰退も原因。ダンボール公害、問題だと言いながらみんな使う。アマゾンに振り回されてる感じ。

○次回以降の予定

- ・8月 なし
- ・9/9 (15時～18時) 『サピエンス全史 第3部』（発表者：松永さん）
- ・10/14
- ・11/11
- ・12/9 (飲み会)